

| 日程    | 場所               | 内容                  |
|-------|------------------|---------------------|
| 7月14日 | 福崎町辻川地区          | まちなみ美化事業の成果視察       |
|       | 江川ふれあいホール        | 県民交流広場事業の成果視察及び意見交換 |
|       | 西播磨県民局           | 県民局での主な取組み等についての説明  |
| 7月15日 | 認定 NPO 法人コムサロン21 | 活動内容視察及び意見交換        |
|       | 姫路市御国野公民館        | 県民交流広場事業（及び地域おこし）視察 |
|       | 中播磨県民局           | 県民局での主な取組み等についての説明  |

## 現地調査内容

### 福崎町辻川地区（まちなみ美化事業）

福崎町は民俗学者柳田國男生誕の地と、特産品のもちむぎの商品化などを中心に観光施策を進めている。辻川地区は柳田國男の生家や民俗学博物館、特産品販売施設（もちむぎの館）のある地域。この地区に至るまでの道路整備とあわせて、幼き日の柳田少年が見たであろう河童のフィギア（河太郎・河次郎）を設置し、生家の裏山を「学問成就の道」として整備し、観光スポットとしての魅力を高める事業を行っていた。

効果としては、河童像の設置により来場者数・もちむぎの館でのお土産などの売上げ共に2割程度増加しているとのこと。

整備に投下した費用を回収できるものではないが、観光の活性（観光者の安全）を地域の活力につなげられれば地域を応援する県としての有意義な役割になると思う。

ただし、まだ十分ではないし2割アップの観光者数が続く保証はどこにもなく、持続的にこの地域の魅力を高め発信し続ける必要を感じた。

特産品として売り出しているもちむぎの人气が高く、需要に比べて供給が追いついていない状況。町長の話では、今年約10ha作付けを増やしたため、10t程度増産できる見込みだと言う。観光に加えて、農業が活気付けば若者が暮らしていける地域づくりにも役立つこともあり大いに期待したい。

### 江川ふれあいホール（県民交流広場事業）

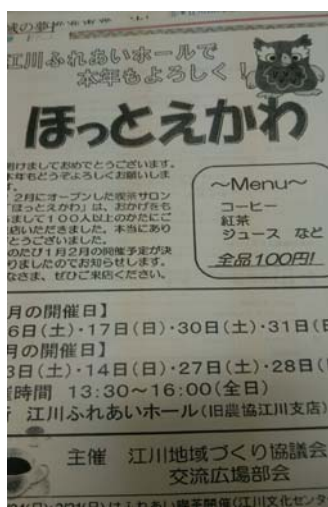
県下で広く行われた「県民交流広場事業」で、典型的な例としては、公民館やコミュニティセンター的な施設に地域住民が集える仕組みを作るため、ハード・ソフト両面で支援する事業。

江川（えかわ）でも公民館に集落の人々が気軽に集まれるようにするため、ふれあい喫茶をオープンし、今では1日約30人が集まりふれあいの場になっていた。（江川：1000人弱の集落）会長の話では、将来的には自宅でとれた野菜の交換なども、より生活の役に立つような機能の実践を目指したいとのこと。

また、地域活性のため、住民のふれあい交流にとどまらず、観光PR（七夕行列など）も企画。この地域ではその昔、芦屋道満と安倍晴明の塚があり、この地で決闘がおこなわれたという言い伝えが残っており、これを活かし“陰陽師の里”としてPRしている。

七夕行列（着物などの衣装を着て両方の塚をお参りするイベント）などを企画し、域外からの誘客を促進するが、宿泊施設やお土産の販売店すらない現状では、来訪者が増えても交流や消費を促すためにはもっと留まる仕組みが必要と感じる。

（→ 公民館を中心として観光客に対するおもてなしや外貨の獲得を提案。）



+ α

### ふれあい号（コミュニティバス・デマンドバス）

江川地区（1000人程度の集落）では民間路線バスが路線を廃止し住民の足（公共交通）が失われたため、コミュニティバスを導入していた。

- ・ 年間3000人利用。1回300円
- ・ バス本体は町が無償で貸与
- ・ 運賃収入だけではとても黒字にならない（運営側の人件費も小遣い程度）
- ・ 朝夕の利用割合が高く昼の利用率が低い。

地域住民にとってはまだまだ車が生活必需で、バスが便利になっても車からの完全乗り換えはできていない（ほとんどいない）とのこと。利用率はそんなに低くない（全住民が1年に平均3回利用）と感じたが、それでも公的な補助金が入らなければ持続可能性がまだ乏しい状況であり、（特に過疎地域での）コミュニティバス成功の難しさを痛感した。

### 認定NPO法人コムサロン21 意見交換会

会員数約170名を誇るかなり大規模なNPO法人で主として他のNPO活動の支援（中間支援活動）を担っている。発足は阪神淡路より前で、日本におけるNPO発展の歴史と共に、時代の要請に応じてあり方を柔軟に対応させてこられ、中間支援活動の重要性を感

じ現在の位置にあるとのこと。

NPOはそれぞれ個別の問題意識に特化して事業をボランティアのようなところからスタートされていることが多いが、実際にNPO法人化すると資金集めや人材（後継者）育成、他の機関（行政や他のNPO）との連携など本事業以外にかかる労力が多く、障壁となっている。

これらを支援する機関が行政以外にも必要。ただ、棲み分けをどうするか。

コムサロン21でも「専門性を持った高度人材の持続的雇用（後継者の育成）が難しい」との課題は共通している。

理事長は、運営のためには「人件費の当てられる委託事業（公共から）をとる必要がある。」としつつも、根本的な課題解決に向け、「企業との連携が（行政に比して）NPOの強みであるから、これを深め、稼げる団体にしていく」「NPO同士のネットワーク価値で稼げるようにするのが理想」と考えておられた。

今年度の総務常任委員会の特定テーマで“NPO法人の活動”について取り上げることとなったが、引き続き研究し掘り下げていきたい。

#### **御国野公民館（県民交流広場事業）**

江川と同じく県民交流広場事業。子どもの料理教室や高齢者のパソコン教室など、単に集まって会話をする以上に、地域住民にとって価値のある事業も実施している。

さらに、大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映に合わせて、黒田官兵衛ゆかりのスポットをめぐる散策コースを提案し、ボランティアガイドを募り、希望者に歴史解説付きの観光ガイドを行う。基地となる公民館では、勘兵衛うどんを手打ちで作って販売もしている。

人が集まり、教室で技術向上したり、ボランティアをしたりすることで、運営側もいきいきと地域活性化を推進している。

以上